

# シンポジウムの趣旨と概要

石井 溥

(2006-08年度理事長)

日本南アジア学会は1988年に創立されました。その20周年を記念するため、本学会では、2007年11月から2008年6月にかけて、日本南アジア学会設立20周年記念連続シンポジウム「インド亜大陸の5000年」を開催しました。以下は、このシンポジウムの内容を各発表者が原稿にまとめたものを収録した報告です。

この連続シンポジウムでは、これまでの南アジア研究を総括しながら、これからの研究課題を検討することを目的とし、南アジア文明の時空全体を視野に入れつつ、日本南アジア学会がこれから進むべき道を念頭に、学際的な議論を行ないました。

20周年を記念する行事や出版その他の企画は、すでに2004-06年度の理事会から立てられてきました。構想の段階では、特定の専門を軸に6回のシンポジウムを組み立てる案も出されましたが、最終案としては、厳密に時代をたどるのではなく、時代性に留意しつつも、全体として南アジアの文明とは何かを考え、そのうえで近現代の南アジアを総合的に捉え、世界にとっての南アジアの可能性をも探る方向となりました。これは本学会が、歴史学や考古学のみでなく、インド学、宗教学、人類学、社会学、経済学、政治学、言語学、文学など多様な専門を（また理想としては自然科学も）包含する学際的な学会であることを考慮した結果です。

上記のような構想に基づいて各回の責任者の人選がなされ、その責任者が各回のシンポジウムの企画・人選を行ないました。また、一部のコメントーターについては南アジア学会員から公募する形もとられました。

会場は、南アジア学会員が日本中に分布することも考慮し、京都で3回、東京で3回開かれました（2007年12月～2008年1月と2008年4月～6月の期間に、1ヶ月に1回開催。時間は土曜日の13時～17時）。ま

た開催形態は、南アジア学会員だけでなく一般の方々にも公開する形（入場無料）とすることとし、各回に70-100人ほどの参加者を得て行なわれました。報告後の質疑には一般の方々も加わり、学会の大会とは雰囲気異なる討論もなされました。

以下はシンポジウム全体の構成、各回の目的、開催日・会場、責任者です。

#### **第1回◆南アジアという方法と視角—比較と連鎖—**

2007年11月24日、京大会館 責任者：石井溥、下田正弘

南アジア研究の課題と方法について、来し方と行く末を見据えながら、問題提起的議論を行なう。

#### **第2回◆「インド的文明」とは何かⅠ**

2007年12月8日、東大法文2号館大教室

#### **第3回◆「インド的文明」とは何かⅡ**

2008年1月12日、京大百周年時計台記念館国際交流ホールⅢ

責任者：永ノ尾信吾、小谷汪之、水野善文

インド亜大陸に展開してきた南アジア文明あるいは「インド的文明」とは何かを、インターディシプリナリーな視角から議論する。

#### **第4回◆南アジアにおける近代とは何か**

2008年4月26日、東大法文2号館大教室 責任者：谷口晋吉、粟屋利江

標記テーマについて、植民地的近代性、内発的な展開、他地域との交流や交易などを視野に入れつつ、多角的・多層的な議論を行なう。

#### **第5回◆機会・移動・リンクする人々—南アジア社会の「現在」を考える—**

2008年5月17日、京大百周年時計台記念館国際交流ホールⅢ

責任者：押川文子、近藤則夫

南アジアの現在の動態、その影響、グローバル世界における位置などについて総合的な議論を行なう。

#### **第6回◆可能性としての南アジア**

2008年6月21日、東大法文2号館大教室 責任者：水島司、田辺明生

南アジア研究の将来を展望し、課題と目的と方法を新たに定義し。世界の未来のより豊かな想像・創造、新たな知的パラダイムの構築に対する南アジア研究の貢献の可能性を探る。

なお、第6回は、第5回までの内容をまとめつつ将来を展望する場として組織され、第5回までの内容がかなり言及される結果となったため、本報告書ではその報告は割愛しました。この第6回の報告者は、各回の責任者の1人が勤め、自らの担当のシンポジウムを振り返りつつ新しい知見を出し、また他の回とも噛み合わせる方向で議論を行ないました。そこでは、南アジア研究の深化が確認される一方、専門化と学際性の両立の難しさも指摘されました。

本報告においては、コメンテーターの方々の発言、および学会員や一般の方々も加わってなされた質疑の記録も割愛させて頂きましたが、活発な議論に加わってくださった皆さま、またすべての参加者の皆さまにここで深甚な感謝の意を表させていただきます。

いしい ひろし ●東京外国語大学名誉教授 (hishii@aa.tufs.ac.jp)